運営委員会だより

運営委員　若林　孝範

◇　「『真実』と書いた紙を丸めて『モンスター』に投げつける。必死に何度も何度も投げつける。すると、突然、銃弾さえものともしなかった『モンスター』が地面に崩れ落ちる。」そんな夢を浅い眠りの中で見た。

◇　「プーチン大統領の支持率８３％！」という報道を４月２日に耳にした。ロシア国営テレビのプロパガンダが、テレビを情報源としている年配の人に浸透しているのがその主な理由だという。また、ＳＮＳを使っての情報操作が若い人に大きな影響を与えているという。戦争犯罪人といえるプーチン大統領を支持するロシア国民。こんなことが２１世紀におきるとは信じたくないが、現実であり、同じようなことは他の国でもおきている。「国民」とは何か？

◇　私の大学の卒論は「『１９８４年』におけるジョージ・オーウェルの社会的視点」だ。英国の作家ジョージ・オーウェルは１９４８年に「１９８４年」（１９４９年刊）というディストピア小説の執筆を終え、１９５０年１月に４６歳という若さで病死した。

　オーウェルははじめ「ヨーロッパで最後の人間」という題で構想。１９８４年、世界は三つの超大国オセアニア、ユーラシア、イースタシアによって分割され、いずれも核武装し、恒久的に戦争状態にあるが、勝負はつかない。おそらくつける気もない。主な舞台はオセアニア国に属するロンドン。神格化された指導者ビッグ・ブラザーを頂点とする党の支配が貫徹している。「テレスクリーン」による私生活の監視、友人や家族の密告、マスメディアの操作、言語の改造によって思想統制が徹底されている。主人公ウィンストン・スミスは「真理省」の職員として歴史の改ざんの作業にあたっていたが、党支配に疑問をいだくようになり、ひそかに日記を書き、恋人ジュリアと密会して禁断の自由恋愛を実行する。伝承童謡や古いガラスの文鎮などを手がかりに過去を想起し、民衆の潜在的な力に期待し、現体制の転覆を夢想するが、思想警察に捕縛され、「愛情省」内で党幹部のオブライエンの手で拷問を受けて洗脳され、ついには破滅させられる。（「１９８４年」のあらすじは、川端康雄著「ジョージ・オーウェル」岩波新書より引用）

今後の主な予定

5月　6日（金）13時～	スダジイ楽書会
5月13日（金）14時～	原発と自然エネルギー部会
5月14日（土）11時～	3色パステル画寺子屋
5月20日（金）13時～	スダジイ楽書会
6月　4日（土）10時～	ぐんま教育文化フォーラム総会（教育会館中会議室）
14時～	近現代史ゼミ（前橋市総合福祉会館）

※コロナウイルス感染拡大の状況などにより予定が変更される場合があります。

ぐんま教育文化フォーラムのE-mailアドレスが下記の通りに変わりました

育ちと学び　No. 51　ぐんま教育文化フォーラム
2022年4月22日　発行
〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館3F
[TEL・FAX] 027-235-8876
[E-mail] forum.gunma@gmail.com
[URL] http://gkb-forum.sakura.ne.jp

スマホからホームページへ